

フォトゾフィオ応募書類

01 作家名 石崎幸治（いしざきこうじ）自己紹介文・経歴

写真家、エッセイスト、イラストレーター 1947年東京生まれ。75歳。1971年早稲田大学商学部卒。在学中早稲田大学写真部に所属し卒業後フリーのカメラマンになる。主に新聞社や出版社の依頼で撮影をする。その後旅行記を書いたことがきっかけで写真に添えるエッセイも書くようになる。また水彩画と焼き物も45歳のときに始め公募展で入選している。

単行本 「名城発見」KKベストセラーズ、「桶屋一代江戸を復元する」筑摩書房、「石畳あみのバッグと小物」日本ヴォーグ社、「稲城三十六景」インターメディアリー この本は随筆、写真と挿絵を全て制作した。

公募展 2010年団地景観フォト&スケッチコンテストカレンダー賞 2013年第9回千修イラストレーションコンテスト ソトコト賞 2015年環境フォトコンテスト環境大臣賞と環境フォト大賞 2016年JMPA WEBフォトコンテスト受賞 2017年第42回JPS展入賞 第65回ニッコールフォトコンテスト受賞 2018年ファーレ立川アートフォトコンテスト入賞 第71回創造展陶芸部門入選 2020年第3回サイエンスフォトコンテスト最優秀賞 2021年JMPA インターネットフォトコンテスト入賞 2021年オリンパス「プロ写真家の広角写真展」入選 2022年北斗書房主催エッセイコンテスト優秀作品に選ばれる

02 制作の動機

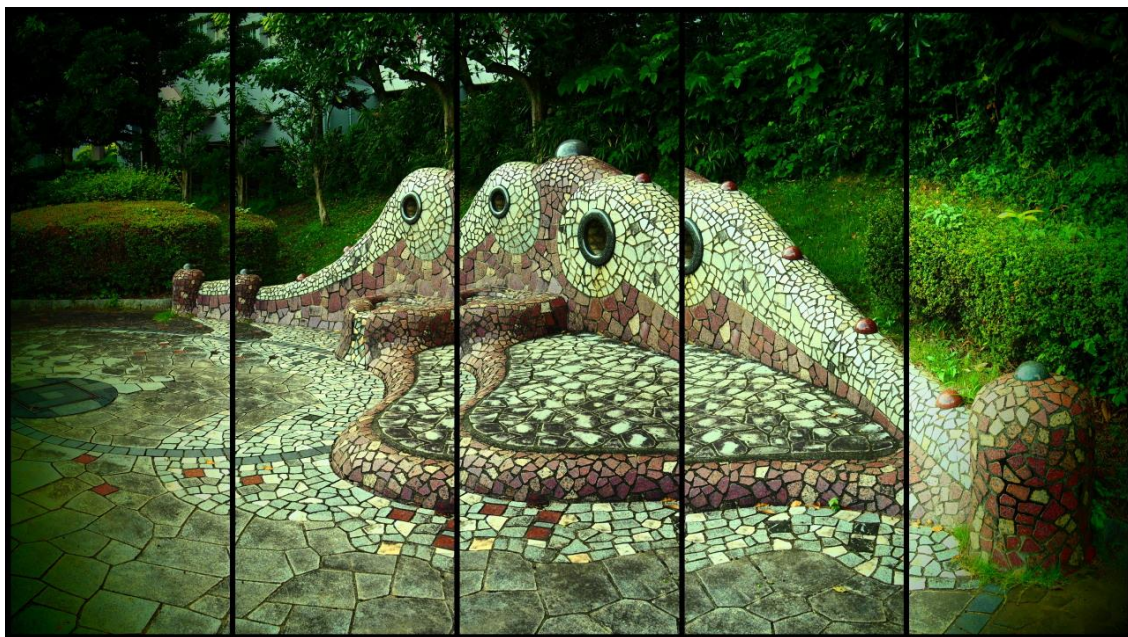
公募の写真展覧会を見に行って感動する風景写真に出会った例がない。撮影者の意識が低いのか、それとも審査委員が選ぶ目がないのか分からない。展示してある写真の多くは場所、季節と時間を選んで最高の条件で撮影されているが、こういう風景はどこかで見たことがあるという既視感を覚えてしまうのである。写真を撮る人も選ぶ人も日本画や浮世絵に描かれた世界を写真で再現するのが、素晴らしい風景写真だと無意識のうちに思い込んでいるのかも知れない。常識を覆す新しい発想で独特の風景写真を創り出したいと思った。

03 テーマの説明

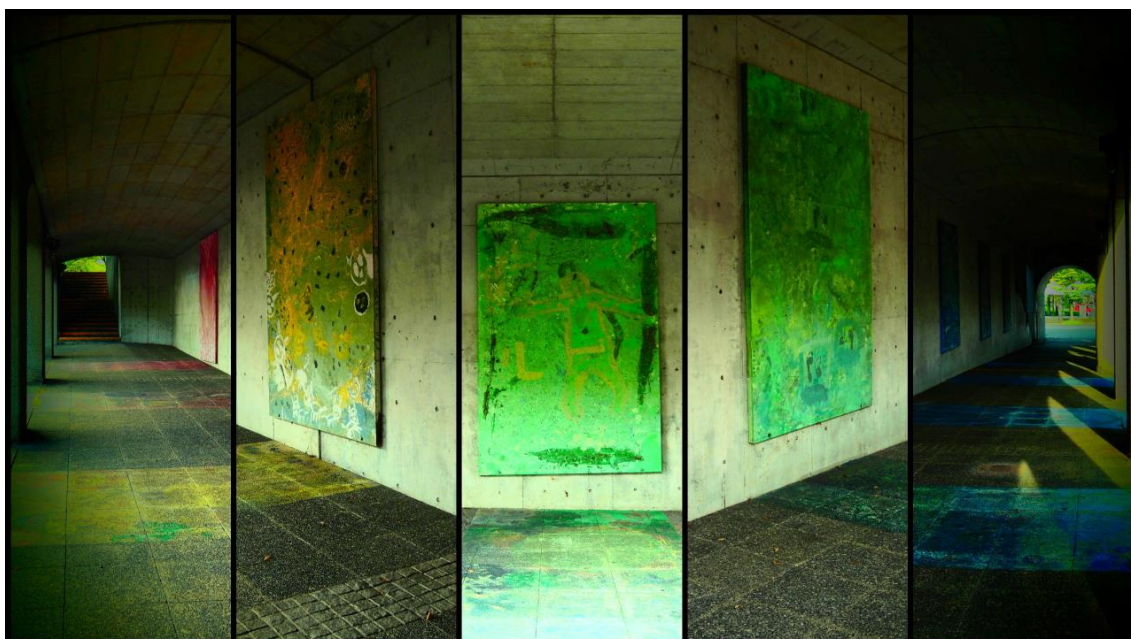
ルネサンス以前の絵画は正確な表現の写実的であることが素晴らしい絵の基準だった。その後、画家の印象を描く絵が登場し、セザンヌは多視点で画面を構成している。ピカソに至ってはさまざまな視点からのバラバラな認識を 1 つの画面に再構成した絵を描いた。私はカメラに内蔵されている画面を 5 分割撮影できる機能を利用して、普段見慣れている風景を多視点で記録した。それだけでは飽き足らず写真の編集機能を駆使して自分の思い描いたイメージに近づくように彩度の調整や画面の周辺光量を落とすなどの処理を行った。大幅な画像処理を認めないという写真コンテストもあるが、それではデジタル時代の新しい写真は生まれないと思う。

04 画像 10 点 題名

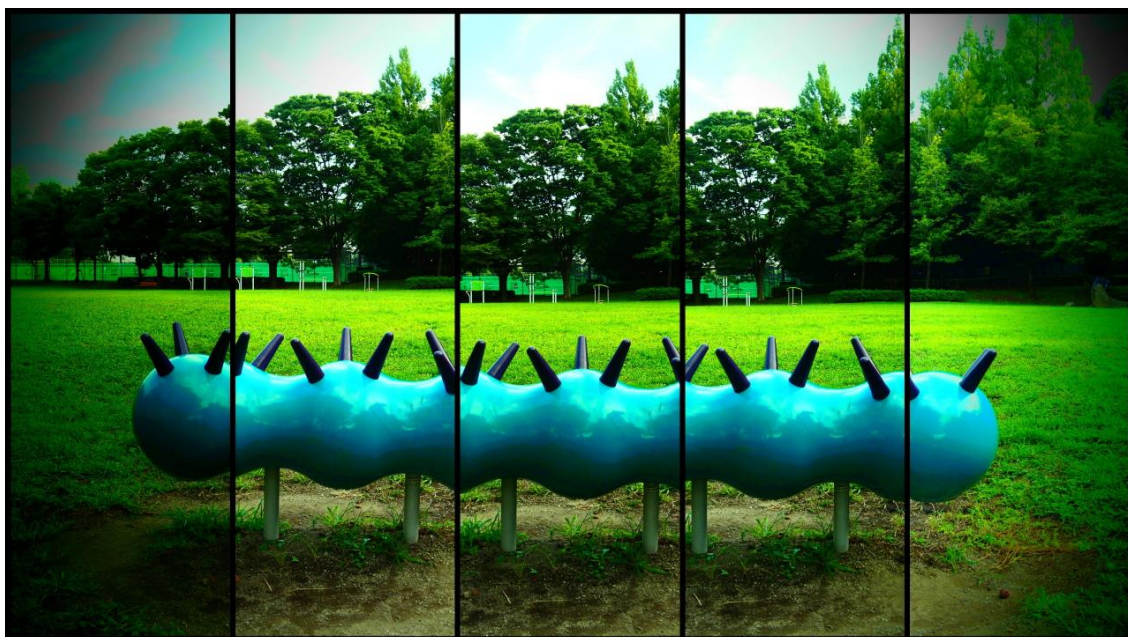
作品その 01 元砂場



作品その 02 回廊



作品その 03 遊具



作品その 04 ストーンサークル



作品その 05 校門



作品その 06 校舎



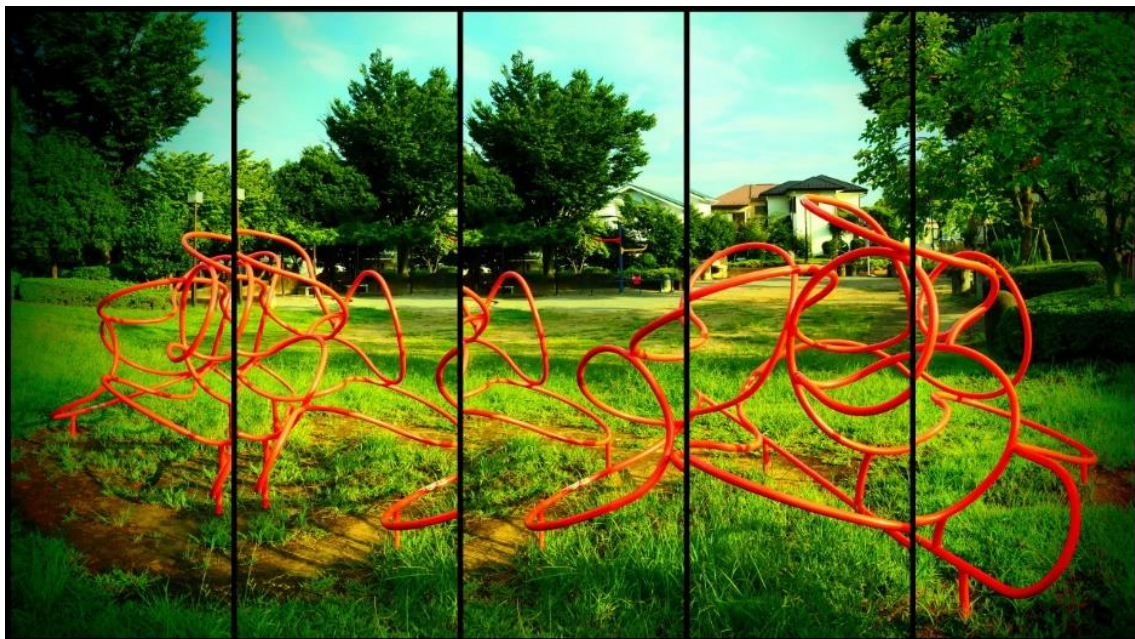
作品その 07 滑り台



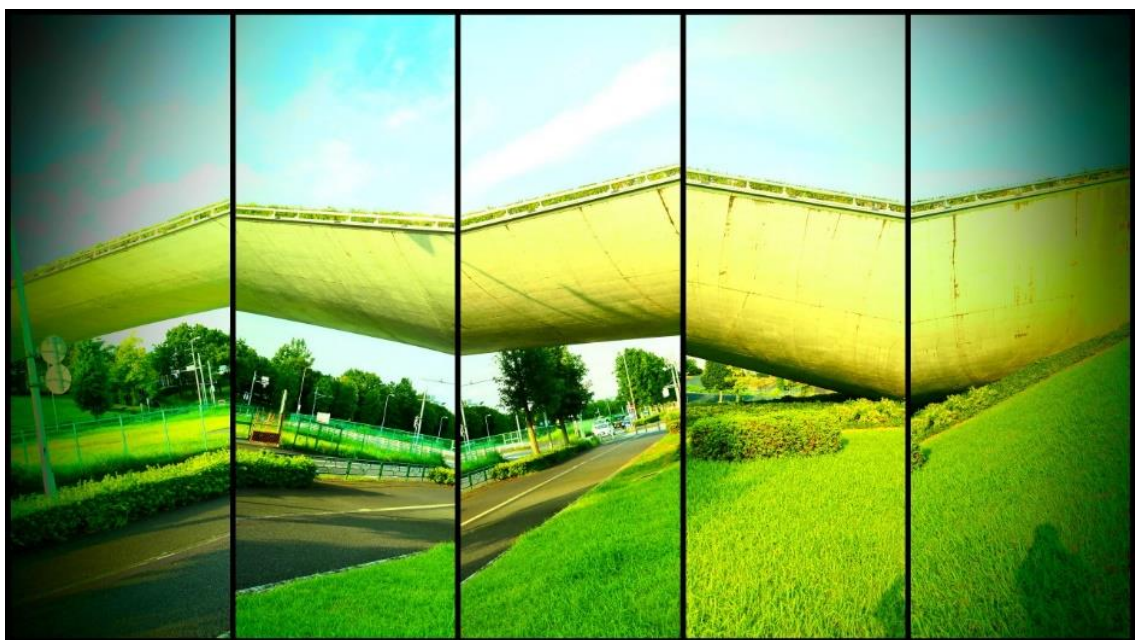
作品その 08 集合住宅



作品その 09 ジャグルジム



作品その 10 くじら橋



05 連絡先 ウェブサイト

電話 090-3508-5804

E メールアドレス ikkst@yahoo.co.jp

ウェブサイト アメーバブログ「石崎幸治の身辺雑記」